

懸命やったのですが、あまり耳を貸してもらえなかった。そこでやむなくストを打ったわけです。郵便労働者の組合が過激になったのは、それ以来ではないか、と私はひそかに考えています。

だからといって、最近の不当な要求がいろいろと起っているわけではありません。現在では、郵便労働者の年間所得は一万五、六千ドルに達しているはずで。

日本の終身雇用制や企業別組合、労働者の気持を企業側が汲むといったところは、日本から学ぶべきところだと思えます。ただ、カナダでも、ここ二、三年、労働争議は減っています。以前ほど悪い状況ではありません。

松山 どうも組合幹部は法律を軽視していた感じでしたね。アングロ・サクソン系は、悪法も法なりという考えに従って行動する、順法的な人々だと信じていたのですが……。

大使 イヤ、議会在法令を発動し、違反者は厳しく罰するという態度を示したため、まもなく組合員は職場復帰しました。たしかに、組合幹部の間に、議会の意向を無視しようという動きはありましたが、それは長続きしませんでした。ただし職場には復帰しましたが、最終的な解決は今後に残されています。

松山 それからカナダを訪問してもうひとつ感じたことですが、日本とカナダはいろいろな点でよく似ていますね。議会制民主主義、言論の自由、核兵器の非所有、いずれも共通しています。それに多くの国々と比べて、両国とも教育水準が高く、それに貿易に大きく依存している。

同時に、違いもいくつかあります。最大の違いのひとつは、地方自治の大きさでしょう。カナダでは、どうして州の首長がガバナール（知事）ではなく、プリミア（首相）と呼ばれているのか、カナダへ行っただけで分りました。

例えば、石油、天然ガス、木材といった天然資源を所有しているのは、連邦政府ではなく、州政府なんです。これには本当に驚きました。カナダの州首相というのは、アメリカの州知事と比較してずっと強力だという印象を……。

大使 権限は確かに大きいですね。松山 州首相は、軍事と外交以外なら何でもできる。アルバータ州のローヒード首相とオンタリオ州のデイビス首相にお会いしましたが、アメリカの州知事より、知性、洞察力、国際性など、はるかにすぐれていて感心しました。イギリス人の気品と、アメリカ人の積極性を兼ね備えておられますね。

日本側も、カナダではいかに地方自治が強いかわかり、よく知っておくべきです。われわれは、どうも連邦首都のオタワばかり目を向けがちです。

州と連邦の関係

大使 カナダの連邦制度については、おっしゃる通りです。これは、広大な国に少ない人口という、地理的なものがひとつの要因になっています。この是非はともかく、天然資源に関する権限は、憲法で州に属することが定められています。例えば、アルバータ州というのは、カナダにおける石油と天然ガスが最も多

いところですが、州首相はその膨大かつ重要な資源に対する権限を失うまいと、非常に気を配っています。

とはいえ、いったん石油や天然ガスが州界を越えれば、連邦の法令や権限の適用下におかれることになっています。輸出については特にそうですね。同じこと



は、他の州の他の鉱物あるいは金属資源についても言えます。天然資源に関する課税や環境規制も州の管轄ですが、国際貿易となれば、連邦政府の管轄になります。

松山さんがちょうどカナダにおられた頃、カナダでは憲法問題が検討されている最中でした。カナダの憲法（「英領北アメリカ条令」）は、ご存じのように、今でもロンドンに籍をおいているのです。これだけの広大なカナダの現状に合ったカナダ独自の憲法を制定する試みは、何度かなされています。その具体的な一例が、松山さんのカナダ滞在中にあったわけですね。連邦政府は十州の首相と一応の基礎作りはすませました。二月に開かれる次の会議で、憲法のカナダ化とその改正権に関する解決が見つかるものと期待しています。

カナダでは州が強い力をもっていることは、ご指摘の通りです。天然資源は州

政府が握っており、しかも手離すまいとやっきになっています。その上、オンタリオ州、アルバータ州の首相はいずれも同じ政党に所属しながら、両州間に強い利害の衝突も起こります。というのは、オンタリオ州は、その工業を動かすのにアルバータ州の石油や天然ガスを必要としていて、できることなら州産業の競争性を保つためにこれらの価格を抑えてもらいたい。ところがアルバータ州としては、価格を引き上げたいわけです。そこで衝突が起こる。カナダの政治は非常にむずかしいですね。

松山 中でもむずかしいのはケベック問題……。

大使 そうですね。それはまた別の側面ですね。松山 一九七六年にオリンピック取材のためモントリオールへ行っったときは、すべての道路標識が英仏両語で書かれていたのに、今度行っったときはフランス語だけでした。

大使 そうですか。松山 カナダが二つの公用語をもっているということは、特に国際社会では大きい利点だと考えて、以前はカナダ人が羨やましかったのですが、今はやや悲観的な気持になりました。フランス語を話す人々と英語を話す人々との対立がいかほど深刻か、日本人にはちょっと理解できませんね。日本は一つの民族、一つの言語をもつ均質社会ですから。

大使 日本はおそらく世界で最も均質な国ですから、おっしゃる通り日本人にとって理解しにくい問題ですね。日本は、きわめて限られた地域に一億